

柏市とカムデン町の自然共存についての比較

猪又 優(高校1年)

今回私がカムデン派遣事業で特に興味を持ったのは、カムデン町の自然との関わり方です。広大な土地を持つオーストラリアの南東に位置し気温・湿度ともに畜産に適し、強い地域のコミュニティを持つカムデン町と、手賀沼を初めとした豊かな自然と中心的な市としての役割を併せ持つ柏市を自然共存という観点で比較しそれぞれの良い面を見つけ出したいと思います。まず、今回の派遣で特に驚いたことが3つあるので、柏市との比較を交えて述べたいと思います。

1つ目は、牧場がとても広いことです。

ホストファミリーの家に行く際に通る長い真っ直ぐな道があるのですが、ずっと両側に牧場が見られ牛や馬がいました。家畜がのびのびと過ごしており、柏では見られない光景を見ることができました。柏市は酪農こそ盛んではありませんが土地の4分の1が農地であり、かぶが名産であるなど畑作の盛んな市です。気候や、都市に近いことなどそれぞれの土地を活かした農業が発展していると感じました。

2つ目は、電柱が木でできていることです。

帰国後調べていて分かったのですが、これはかつてオーストラリア全体の電柱が木でできていたためであり、現在は都市を中心にコンクリート製、または電線の地中化が進められているようです。ちなみに、これらの電柱に使われているのはユーカリの木だそうです。現地でもホストファミリーに伺った際に「これはガムの木だよ」と言われたのですが、ガムツリーは現地の言葉であり、ユーカリの木という意味だそうです。

3つ目は、地域で運営されている農園があることです。

派遣の中で伺った農園は全て地域の方々の手で管理・運営されているとのことでした。ハーブやラディッシュなどをはじめ、養蜂や鶏の飼育までも行っており、地域のコミュニティの結びつきの強さと、地域の方の暖かな心を感じました。柏では、公共の場や公開可能な家の庭を地域の人々で手入れしていくカシニワというものがあります。どちらも地域で運営する農園や場を持つことで、地域の活性化を促し、また、地域の人々が自然との関わり方を再認識する場となっていると感じました。また、作物を育てるだけでなく、販売・共有まで行うことで、より強いコミュニティを形成することができるのだと思います。カムデンではファーマーズマーケット、柏ではカシニワフェスタなどで育てた作物を販売・共有しています。

このように、カムデンと柏の自然環境にはいくつかの相違点がありますが、どちらの地域もその土地に合った作物を栽培し、自然を通して地域のコミュニティを活性化させているということが共通しているのではないのでしょうか。



ホストファミリーの皆さんと